

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E142N007		学習英文法 (English Grammar)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修	2	3	教育学部 平成31年度以前入学生用			氏名 橋本 美喜男 E-mail mikioha@oita-u.ac.jp 内線 7578												
授業の概要	母語である日本語と比較しながら、英語の各品詞の性質(特に名詞、代名詞、動詞など)や文の構造(いわゆる5文型)の理解を学生は深めるとともに、中学校で学習する基礎的な語彙を重点的にかつ能動的に学習する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 中学校及び高校における英語、さらに小学校英語に対応可能な、英語の基礎的な文法力を身につけることを本授業の目的とする																		
目標2 また、基本語彙を詳しく調べることを授業の課題とすることで、学生の積極的な学習を促したい																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 導入： 言語と文法について																		
2 文型について(特に5文型)																		
3 Beの性質と用法について																		
4 Haveの性質と用法について																		
5 Doの性質と用法について																		
6 名詞の数について																		
7 冠詞について																		
8 行為と状態を表す動詞																		
9 能動態と受動態について																		
10 関係代名詞と関係副詞について																		
11 形容詞と副詞について																		
12 比較構文について																		
13 前置詞について																		
14 数量詞について																		
15 否定について																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回小テストを行う。					工夫 その 他の	調べ学習を行う。										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	小学校や中学校で使用される教科書の中で、英語の語法や文法について疑問点等をあらかじめ考えさせ、授業でレポートしてもらう。(10h)																
	事後学修	疑問点等について、さらに調査をさせ、より深い理解を身につけさせる。(10h)																
教科書	講義中に紹介する。Moodleを通してプリント等を配布する。																	
参考書	安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』 開拓社																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	毎回の授業中の課題	40%																
	最終の課題	60%																
注意事項	電子辞書を持ってくること。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	